

# シンクロトロン光を利用したキクの突然変異育種

野菜・花き部 花き研究担当

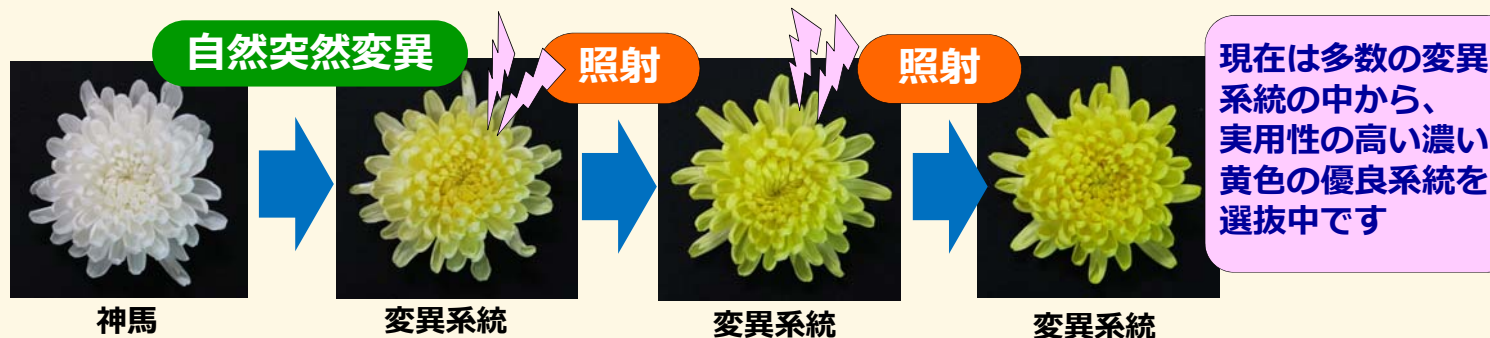
**シンクロトロン光**は放射線の1種で、農作物の突然変異育種における変異原として活用することができます。突然変異育種では、既存品種の主な特性は維持したままで、花色等の特定の形質のみを交雑育種よりも短期間で改良ができます。

現在、キクを中心とした花き類でシンクロトロン光照射による新品種開発を行っています。

## ◆黄色輪ギクの品種開発

- 佐賀県内では白色輪ギク「神馬」を主体に、黄色輪ギクも同時に栽培されていますが、「神馬」よりも栽培適温が高いことから、「神馬」と同じ条件で栽培可能な**黄色品種**が求められています。

現在、「神馬」の花色変異系統にシンクロトロン光を繰り返し照射し、**段階的な花色の改良**による濃黄色品種の育成を行っています。



## ◆低温管理が可能なキクの品種開発

- キクの厳寒期の作型では低温管理による暖房コストの低減が可能な品種が求められています。これまでのスプレーギクへの照射では、**低温管理下（最低温度13℃）において、原品種よりも7日以上早く開花する変異系統**を獲得しており、現在は白色輪ギクにおいても低温開花性を付与した品種育成に取り組んでいます。



## ◆スプレーギクの花色シリーズ品種の開発

- 既存のスプレーギクに照射し、これまでに獲得した様々な花色変異系統の中から、**同時期に開花する花色のみが異なる花色シリーズ品種**の育成を行っています。

